

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス はびねすスタディ柿生(単位2)		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日 ~ 2026年 2月 20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	78 (回答者数)	18
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日 ~ 2026年 2月 20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2 (回答者数)	2
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がされている	利用開始時に、運営規程や支援プログラム、利用者負担について専門用語を避けながら具体例を用いて説明し、保護者の理解度を確認しながら丁寧に説明することを意識している。 また、口頭説明だけでなく書面や資料を併用し、後から見返せるようにしている。	説明内容をより分かりやすくするために、写真や図を用いた資料や動画等の活用を検討するとともに、定期的な振り返りや再説明の機会を設け、理解の定着と不安の軽減につなげていく。
2	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされている	放課後等デイサービス計画をもとに、目標と支援内容のつながりが分かるよう具体的な活動例を交えて説明し、保護者や本人の理解を確認しながら丁寧に共有している。 また、専門用語はできるだけ避け、日常の様子と結びつけて説明することを意識している。	計画内容と日々の支援の実施状況や成長の様子をより具体的に伝えるため、記録やフィードバックの充実を図るとともに、定期的な見直しや面談の機会を通じて保護者と双方で共有・調整していく。
3	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)が作成されている	日々の関わりや記録、関係機関との情報共有を通じてこどもの特性や状況を多角的に把握し、保護者からの聞き取り内容も踏まえながらニーズや課題を整理している。 また、職員間でのケース会議を実施し、複数の視点から客観的に分析した上で個別支援計画を作成することを意識している。	アセスメントの精度を高めるための研修や評価ツールの活用を進めるとともに、定期的なモニタリングや見直しを通じてニーズの変化に柔軟に対応していく。 また、こども本人の意向や保護者の思いをより丁寧に反映できるよう、面談や聞き取りの機会を充実させていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がある	交流の企画や調整に必要な時間や人員が限られている。	安全面や支援体制を確保したうえで、少人数のグループでの交流や合同イベントの実施を検討する。地域の児童館や放課後児童クラブと事前に連携・調整を行い、交流プログラムを計画的に組み込むことで、子ども一人ひとりに合わせた支援が提供できる体制を整える。
2	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされている。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされている	父母の会や保護者会の開催、きょうだい向けイベントなどを通じて家族への支援は、企画や運営に必要な人員や時間が限られているため十分に実施できていない。また、保護者の参加意欲や日程の調整の難しさもあり、保護者同士やきょうだい同士の交流機会を安定的に設けることが課題となっている。	家族への支援やきょうだい向け交流の充実を図るため、参加者のニーズや日程に配慮した計画的なイベント運営を検討する。また、地域の団体や外部講師との連携を活用することで負担を分散し、保護者やきょうだいが参加しやすい環境を整えることが必要である。
3	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されている	通信やホームページ、SNSなどを通じた情報発信は、作成や更新に必要な時間や人員が限られていることから、定期的かつ十分な情報提供ができていない。また、どの情報を優先して発信するかの基準や方法が統一されておらず、内容が一貫していないことも課題となっている。	情報発信の充実を図るため、発信内容や頻度のルールを明確化するとともに、定期的に更新できる体制を整える。文章だけでなく写真や図を活用し、こどもや保護者が理解しやすい形式で情報を届ける工夫も必要である。また、自己評価の結果についても分かりやすく整理し、透明性を高めて共有することが求められる。